

## 2018年度会務総括報告

2018年度事業ならびに会務運営は、2017年度第6回理事会において承認（2018年度定時総会にて報告）された事業計画に基づき執行した。

総会学術大会の英語化については、2017年度に引き続き Cypos と発表スライドの完全英語化を実施し、英語口述発表は約53%を達成することができ、着実に英語化を押し進めることができた。国際化では、タイで開催された18th Asia Oceania Congress of Medical Physics (AOCMP2018) (11月)においてワークショップを開催してアジアにおける基盤づくりを進めた。中華医学会影像技術学会 (CSIT)、大韓放射線科学会 (KSRS)、タイ医学物理学会 (TMPS) ならびに中華民国医事放射学会 (TWSRT) と引き続き学术交流を行った。外務省や国際協力機構などの後援を得て進めているミャンマー教育支援事業において、2018年12月に現地大学の教員の教育を目的にワークショップを開催し、多くの参加者で成功裏に終えることができた。また、英語論文誌 RPT は、計算上インパクトファクターが1.0を上回ることができた。

一方、学際化では、2018年10月に日本放射線看護学会 (RSNJ) と学术交流協定を締結し、既に学術協定を締結している日本循環器学会 (JCS) とともに、今後さらに学際化を促進して行く。

市民公開シンポジウム、市民公開講座を開催して研究成果を一般市民へ積極的に還元した。また、学会事業評価委員会による2017年度の事業評価結果を委員会、部会、支部の2018年度事業にフィードバックした。

2018年度末の正会員数は17,301名であり、2017年度末の正会員数と比べてわずかであるが減少した。学生会員は253名となり2017年度末と比べて微増した。また、総会学術大会では4,700人を、秋季学術大会では1,750人をを超える多くの会員が参加し、大盛会であった。

会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会事業が順調に執行できたことに深甚の謝意を表す。

以下に、2018年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

### 1. 学術集会事業；公1

#### 1) 学術大会の開催

##### (1) 総会学術大会の開催

第74回総会学術大会は2018年4月12日(木)～15日(日)の4日間、錦大会長のもと開催した。一般研究発表演題は546題、参加登録者数は4,728名であった。

第75回総会学術大会は2019年4月11日(木)～14日(日)の4日間、石田隆行大会長のもとパシフィック横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

##### (2) 秋季学術大会の開催

第46回秋季学術大会を2018年10月4日(木)～6日(土)の3日間、千田浩一大会長のもと仙台国際センター(仙台市)にてJRC協賛、日本医療情報学会の後援で開催した。一般研究発表は456題、ポスター発表60題、学術班研究報告8題、参加者は1,785名であった。

第47回秋季学術大会を2019年10月17日(木)～19日(土)の3日間、福西康修大会長のもと大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)(大阪市)で開催すべく準備を進めた。

##### (3) 専門部会プログラム、セミナーの開催

7つの部会が春秋の学術大会にジョイントして部会プログラムを開催し、教育講演や種々の企画を行った。また、教育委員会、専門部会、地方支部共催で、画像部会は医用画像プログラミングセミナーと、2回のROCセミナー、DRセミナー、臨床画像評価セミナーを、核医学部会は核医学技術研修会と核医学画像セミナーを、放射線治療部会は3回の放射線治療セミナーを、撮影部会は2回の乳房撮影ガイドライン・精度管理研修会、CT応用セミナー、2回の救急撮影セミナー(実践編)、デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナーを、計測部会は2回の簡易線量計作製セミナーを、放射線防護部会は2回の医療放射線リスクコミュニケーションセミナーを、医療情報部会は2回のPACS Specialistセミナー、2回のPACSベーシックセミナーを行った。

##### (4) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の企画で、春もしくは秋に学術大会ならびにフォーラム、セミナーなどを開催した。学術大会については、北海道支部は4月に北海道支部第74回春季大会、11月に北海道支部第74回秋季大会を、東北支部は11月に東北支部第56回学術大会を、関東支部ならびに東京支部は12月に合同で関東・東京支部合同研究発表大会を、東京支部は5月に第72回東京支部春期学術大会を、中部支部は11月に第53回中部支部学術大会を、近畿支部は11月に第62回近畿支部学術大会を、中国・四国支部は11月に第59回中国・四国支部学術大会を、九州支部は11月に第67回九州支部学術大会を開催した。

(5) 公開シンポジウム・公開講座の開催

一般市民を対象とした2018年度市民公開講座を、科学研究費補助金を得て「乳がんの診断から治療まで ～放射線と上手につき合うために～」のテーマで仙台市において開催した。また、2018年度市民公開シンポジウムを「いつくるかわからない自然災害、病院は大丈夫？」のテーマで京都市において、2018年度中高生対象メディカルサイエンス講座を「医療画像の世界、もっと知りたい！」のテーマで広島市において、ならびに2018年度JSRT-JART合同市民公開講座を「家族・地域・医療で支える認知症を理解し上手につき合うためのマル得セミナー ―認知症の専門医と診療放射線技師、理学療法士がお答えします―」のテーマで名古屋市において開催した。

(6) フォーラムの開催

広報、啓発を目的に放射線防護委員会は第74回総会学術大会時及び第46回秋季学術大会時に放射線防護フォーラムを、標準規格委員会は第74回総会学術大会時及び第46回秋季学術大会時に標準化フォーラムを、関係法令検討委員会は第74回総会学術大会時及び第46回秋季学術大会時に放射線管理フォーラムを、医療安全委員会は第74回総会学術大会時ならびに第46回秋季学術大会時に医療安全フォーラムを開催した。

## 2. 刊行広報事業；公2

(1) 学会誌の発行

2018年1月～12月で掲載論文数が78編（昨年は同期間で65編）となった。学会誌第74巻1号～第74巻12号の12冊（論文特集号1冊含む）を毎月20日に発行した。

(2) 英語論文誌の発行

公益社団法人 日本医学物理学会との共同発刊で、第11巻1号を2018年3月20日付、2号を2018年6月20日付、3号を2018年9月20日付、2018年12月20日付で発行した。掲載論文数の合計は56編となった。

(3) 出版活動

放射線医療技術学叢書(36)「図解 知っておきたい放射線情報システムの構築」、(37)「初学者のための核医学実験入門」を各1,000部増刷した。また、放射線スキルアップシリーズの「標準 核医学画像評価」を発刊した。

(4) 支部雑誌の発行

各支部において支部雑誌を発行した。北海道支部は北海道放射線技術雑誌をVol.84, Vol.85を、東北支部は東北支部雑誌第28号を、関東支部は関東支部雑誌21号を、東京支部は東京支部雑誌Vol.133を、中部支部は中部支部雑誌Vol.20を、近畿支部は近畿支部雑誌Vol.24 No.1, No.2, No.3を、九州支部は九州支部雑誌Vol.17を発行した。

(5) 部会雑誌の発行

春秋の学術大会に合わせて各部会において部会雑誌を発行した。

(6) 広報活動

会告、お知らせ、イベント、他団体からの案内をホームページ（和文）等に掲載し、広報活動を展開した。一方、医療に関する放射線被ばくや放射線技術に関する市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

### 3. 研究調査事業；公3

学術調査研究班13班を編成して積極的な学術活動を行った。また、JIS Z 4950(1955 診断用磁気共鳴装置—  
図記号及び標識)の図記号をISO 7010と整合させ、図記号自体を一致させる内容で審議した。

医療放射線管理にとって重要である放射線事前安全評価のためのCT遮蔽計算ガイドライン案をJIRAの協力を得て作成した。

第74回総会学術大会では、専門部会講座の「入門編」9講座、「専門編」6講座ならびに教育講座を、第46回秋季学術大会では、専門部会講座の「入門編」8講座、「専門編」7講座ならびに教育講座を開催した。また、専門部会講座のコンテンツをe-learningとしてホームページに掲載するとともに胸部X線画像の読み説き方、線量計測編ならびに医用統計編のe-learningのコンテンツを作成した。

### 4. 研究奨励事業；公4

規定に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦を行った。

北海道支部は、学術賞、学術奨励賞、Young Investigator Awards、優秀研究賞などの表彰を行った。東北支部は会員表彰を行った。関東支部は、功労賞、技術奨励賞、新人賞を表彰した。東京支部は、学術奨励賞、新人研究奨励賞の表彰を行った。中部支部は功労賞、技術奨励賞を表彰した。中国・四国支部は、奨励賞を表彰した。九州支部は、第46回秋季学術大会での研究発表助成を行った。

### 5. 連携交流事業；公5

#### (1) 国内

- ① 関連学協会への委員の派遣ならびに共催・協賛・後援含めて関連学協会への協力を行った。
  - (a) JIRAと協力し、基準委員会活動としてのJIS原案審議と認証基準審議を行った。
  - (b) 医療情報の標準化を目的に日本IHE協会、医療情報標準化協議会、DICOM委員会などにて医療情報の標準化およびガイドラインを協議した。
- ② JRC理事会に役員を6名派遣し、学術大会開催企画に積極的に参画した。
- ③ 医療被ばく研究情報ネットワークに参画し、診断参考レベルについて関連学会と連携をとりつつ、普及や検討に努めた。
- ④ 公益社団法人日本診療放射線技師会と懇談会を2回開催し、合同市民公開講座を1回開催した。
- ⑤ 日本放射線看護学会と学術協定を締結した。

#### (2) 海外

短期留学生の派遣(2名)、国際研究集会への派遣(11名)ならびに本学会と交流のある海外学会への派遣(1名)を行った。

第74回総会学術大会に中華医学会影像技術学会(CSIT)から役員2名、大韓放射線科学会(KSRS)から2名、タイ医学物理学会(TMPS)から1名、ならびに中華民国医事放射学会(TWSRT)から1名を招聘した。また、第26次中華医学会影像技術学会総会学術大会(11月)に役員2名、AOCMP2018(11月)に3名、第11回タイ医学物理学会に2名を派遣して学術交流をおこなった。